

## 研究業績等に関する事項

■学位論文
1. 林炫情(1998)『日本語と韓国語における呼称の対照研究:自称詞と対称詞を中心に』広島大学大学院国際協力研究科. 修士学位論文
2. 林炫情(2002)『日韓両言語の呼称に関する対照研究:社会言語学的見地から』広島大学大学院国際協力研究科. 博士学位論文

■学術論文
1. 林炫情(2000). 「日本語と韓国語における呼称の対照研究—親族名称の視点移動を中心に」 『ニダバ』 29. 78-87. 査読なし
2. 林炫情(2001a) 「日本語と韓国語における呼称の対照研究序論」 『国際協力研究誌』 7(1). 107-121. 査読あり
3. 林炫情(2001b) 「韓国語と日本語の呼称に関する社会言語学的研究—親族間の上下による使い分けの現状を中心に」 『日本学報』 48. 61-76. 査読あり
4. 林炫情(2002) 「自称詞使用に関する日韓対照研究—アンケート調査に基づいて」 『ニダバ』 31. 51-61. 査読なし
5. 林炫情・玉岡賀津雄・深見兼孝(2002) 「日本語と韓国語における呼称選択の適切性」 『日本語科学』 11. 31-54. 査読あり
6. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情(2003) 「韓国語を母語とする日本語学習者の敬語使用における知識と運用」 『広島大学研究論集』 25(4). 15-30. 査読なし
7. 林炫情(2003) 「非親族への呼称使用に関する日韓対照研究」 『社会言語科学』 5(2). 20-32. 査読あり
8. 林炫情・玉岡賀津雄(2003) 「職場における「お兄さん」および「お姉さん」の親族呼称使用に関する日韓対照研究」 『日本文化学報』 18. 21-35. 査読あり
9. 玉岡賀津雄・宮岡弥生・林炫情(2003) 「「エントロピー」と「冗長度で表現の多様性を表す試み—ペーパーテストとインタビューにおける韓国語系日本語学習者の敬語表現の例に」 『日本語科学』 14. 98-112. 査読あり
10. 林炫情・深見兼孝(2004) 「他称詞と述語にみられる待遇法に関する日韓対照研究」 『国際協力研究誌』 10(2). 13-27. 査読あり
11. 林炫情・玉岡賀津雄(2004) 「韓国の職場での呼称使用の適切性判断に及ぼす属性・対人関係特性・性格特性の影響」 『広島経済大学研究論集』 27(1). 29-44. 査読なし
12. Tamaoka, K., Lim, H. J., & Sakai, H. (2004) Entropy and Redundancy of Japanese Lexical and Syntactic Compound Verbs. <i>Journal of Quantitative Linguistics</i> 11(3). 233-250. 査読あり
13. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生(2005) 「味覚形容詞「甘い」「辛い」「しぶい」「塩辛い」「酸っぱい」の基本義と別義に関する新聞および小説のコーパス出現頻度の解析」 『日本語学研究』 12. 131-142. 査読あり
14. 林炫情(2005) 「非親族への聞き手待遇に関する日韓対照研究」 『ニダバ』 34. 145-154. 査読なし

15. Tamaoka, K., Sakai, H., Kawahara, J., Miyaoka, Y., Lim, H., & Koizumi, M. (2005) Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case cles or grammatical functions?. *Journal of Psycholinguistic Research* (Springer, The Netherlands) 34(3). 273-324. 査読あり
16. 林炫情 (2006) 「代名詞的用法の対称詞使用に関する日韓対照研究」 『人間環境学研究』 5(1). 1-19. 査読なし
17. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情 (2006) 「接頭・接尾辞と漢字二字熟語との結合力に関する日韓対照研究」 『日本語学研究』 16. 33-46. 査読あり
18. 林炫情・姜姫正 (2007) 「韓国語および韓国文化学習者の意識に関する調査研究」 『人間環境学研究』 5(2). 17-31. 査読なし
19. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2008) 「日本語と韓国語の第三者待遇表現：聞き手の違いが他称詞と述語待遇選択に及ぼす影響」 『山口県立大学学術情報[国際学部紀要14]』 2. 56-70. 査読なし
20. 玉岡賀津雄・林炫情・池映任・柴崎秀子 (2008) 「韓国語母語話者による和製英語の理解」 『レキシコンフォーラム』 4. 195-222. 査読あり
21. 林炫情・李在鎬・曹美庚・浅尾仁彦 (2008) 「韓国語学習者コーパスの構築：韓国語学習者作文コーパスにおける検索ツールの開発」 『信学技報』 108 (297) . 21-26. 査読なし
22. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情・池映任 (2009) 「韓国語を母語とする日本語学習者による漢字の書き取りに関する研究：学習者の語彙力と漢字が含まれる単語の使用頻度の影響」 『日本語科学』 25. 119-130. 査読あり
23. Tamaoka, K., Ihara, M., Murata, T., Lim, H. (2009) Effects of first-element phonological-length and etymological-type features on sequential voicing (rendaku) of second elements. *Journal of Japanese Linguistics*, 25. 17-38. 査読あり
24. 林炫情・玉岡賀津雄 (2009) 「韓国人大学生の先輩に対する「親族名称」と「実名」の使用に関する適切度を定める諸要因」 『ことばの科学』 22, 137-149. 査読なし
25. Tamaoka, K., Lim, H.J., Miyaoka, Y. & Kiyama, S. (2010) . Effects of gender-identity and gender-congruence on levels of politeness among young Japanese and Koreans. *Journal of Asian Pacific Communication*, 20. 23-45. 査読あり
26. 林炫情 (2010) 「非母語話者として「日本語を学ぶ」から「日本語を教える」へ—学習者の視点を活かした言語研究と実践教育を目指す—」 『大学日本語教員養成課程研究協議会論集』 4. 73-81. 査読なし
27. 李在鎬・林炫情・浅尾仁彦・曹美庚 (2010) 「韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) について」 『朝鮮語教育-理論と実践』 5. 134-137. 査読なし
28. 林炫情・玉岡賀津雄 (2010) 「韓国語の行為要求型表現とその否定表現の丁寧度に関する研究」 『山口県立大学学術情報[国際学部紀要16]』 3. 11-23. 査読なし
29. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀眞 (2010) 「丁寧度判定で測定したポライトネス・ストラテジーの要因に関する決定木分析」 『日本文化学報』 47. 101-115. 査読あり
30. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2011) 「否定によって日本語の行為要求疑問文はより丁寧になるのか」 『日本学報』 86. 143-153. 査読あり
31. 林炫情・李在鎬・黄晷媛・浅尾仁彦 (2011) 「韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) と韓国語教育への活用」 『山口県立大学学術情報[大学院論集]』 4. 43-51. 査読なし
32. 浅羽祐樹・林炫情・伊藤阿弥加・河村麻衣・酒井陽平・藤井里江・藤村菜美・山本美里 (2011) 「地図の遠近感：対馬の高校生は韓国をどう見ているか」 『山口県立大学学術情報[国際文化学部紀要17]』 4. 59-67. 査読なし

33. 玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀眞・林炫情(2011)「韓国語を母語とする日本語学習者の語彙知識がオノマトペの習得に与える影響」『言語教育評価研究』2. 36-41. 査読あり

34. 林炫情・金恵媛(2012)「韓国語学習者の自律学習を促すアカデミックポートフォリオの構築に向けてー学習目標と評価を明確にした自律学習支援ー」『山口県立大学学術情報[国際文化学部紀要18]』5. 75-84. 査読なし

#### ■報告書

1. 林炫情(2004)『代名詞的用法の対称詞および他称詞に関する日韓対照研究』2002年～2004年度科学研究費補書金(特別研究員奨励費)報告書. 1-118.

2. 임현정(2009)『한국어 교육자료 공유지원화를 위한 말뭉치 구축: 일본어 모어화자의 작문 데이터베이스화를 중심으로』한국학 중앙연구원 해외한국학지원사업(학술연구) 최종보고서(ASK-2008-R-15). 1-50.

【林炫情(2009)『韓国語教育資料共有資源のためのコーパス構築:日本語母語話者の作文データベース化を中心に』韓国学中央研究院・海外韓国学支援事業(学術研究)最終報告書(ASK-2008-R-15). 1-50.】

3. 日本語教育学会(2011)平成22年度文化庁日本語教育研究委託(日本語教育学会)・『生活日本語の指導力の評価に関する調査研究』報告書. 第三章「自国語教育の指導者の評価基準に関する調査」の第2節と第3節3.4担当.

#### ■テキスト・教材

1. 深見兼孝・林炫情(2005)『ベーシック韓国語』広大生協サービス(2005年度・広島大学「ベーシック韓国語」教材)

2. 深見兼孝・林炫情(2005)『ベーシック韓国語練習』広大生協サービス(2005年度・広島大学「ベーシック韓国語」ドリル教材)

3. 尹光鳳・深見兼孝・林炫情(2006)『ベーシック韓国語』広大生協サービス(2006年度・広島大学「ベーシック韓国語」教材)

4. 林炫情(2008)『韓国語勉強しちよる?!』(山口県立大学オンライン学習教材)

5. 曹美庚・林炫情・朴賢珠(2008)『イラストで解く韓国語リスニング』白帝社

6. 金媛恵・林炫情・李文相・朴賢珠・吉田久美(2009)『サランヘヨ!ハングル練習帳』白帝社

7. 林炫情(2009)『イラストで覚える韓国語基本単語カルタ100』(山口県立大学Web教材)

8. 竹蓋順子・曹美庚・林炫情・金眞(2010)『Keywords in Use Korean』(CD-ROM教材、Web教材)

9. 曹美庚・林炫情・金眞(2010)『韓国社会を読む』朝日出版社

10. 曹美庚・林炫情・金眞 (2010) 『韓国文化を読む』朝日出版社

#### ■データベース

1. 曹美庚・長谷川由起子・林炫情・黄晷煥・金亨貞 (2008) 「韓国語学習者用Web辞書データベース」(大阪大学サイバー研究開発センターWebOCMに搭載)

2. 林炫情・李在鎬・浅尾仁彦・黄晷煥・曹美庚(2009)「韓国語学習者作文データベース (KC Corpus)」  
<http://www12.atwiki.jp/kccorpus/>

#### ■学会発表

1. 林炫情. 日本語と韓国語における呼称語の比較—親族名称の視点移動の用法を中心に. 日本語教育学会第9回研究集会. 広島大学(広島). 1998年12月.

2. 林炫情. 日本語と韓国語の呼称に関する社会言語学的研究—両言語における呼称使用の現状を中心に. 社会言語科学会第6回研究大会. 中京大学(名古屋). 2000年9月.

3. 林炫情. 日本語と韓国語における呼称の対照研究—親族間の呼びかけことばを中心に. 韓国日本学会日本語教育学会共同主催日本語教育国際シンポジウム. 同徳大学(韓国, ソウル). 2000年11月.

4. 林炫情. 呼称使用に関する日韓対照研究; 非親族に対する呼称を中心に. 韓国日本文化学会2002年度春季国際学術大会. 韓南大学校(韓国, デジョン). 2002年4月.

5. Tamaoka, K., Sakai, H., Kawahara, J., Lim, H., & Miyaoka, Y. (2002). Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions. Tokyo Conference on Psycholinguistics 2003. Keio University(Japan). March, 2003.

6. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情. 韓国語系日本語学習者における尊敬語と謙讓語の知識と運用—ペーパーテストとインタビュー実験を比較して. 第10回日本語教育学会中国地区研究集会. 広島大学(広島). 2002年12月.

7. Tamaoka, K., Lim, H., & Sakai, H. Statistical analysis of frequency data of lexical and syntactic compound verbs taken from corpora of Japanese newspapers and novels. The Third Asian Conference for Lexicology. Meikai University (Chiba, Japan). August, 2003.

8. 林炫情・玉岡賀津雄. 職場における「お兄さん」および「お姉さん」の親族呼称使用に関する日韓対照研究. 韓国日本文化学会2003年度春季国際学術大会. ハンバット大学校(韓国, デジョン). 2003年4月.

9. 林炫情・玉岡賀津雄. 職場での呼称使用に対する韓国人の属性・対人関係特性・性格特性の影響. 日本語学会第126大会. 青山学院大学(東京). 2003年6月.

10. 林炫情・深見兼孝. 第三者への言及称(他称詞)と述語に見られる待遇法に関する日韓対照研究. 韓国日本学連合会第1回国際学術大会. 中央大学(韓国, ソウル). 2003年7月.

11. 林炫情. 非親族への代名詞的用法の対称詞使用に関する日韓対照研究. 西日本言語学会第34回研究発表会. 広島大学(広島). 2004年9月.

12. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生. 味覚形容詞「甘い」「辛い」「渋い」「塩辛い」「酸っぱい」の基本義と別義に関する新聞および小説のコーパス出現頻度の解析. 第10回韓国日本語学会. 誠信女子大学校(韓国, ソウル). 2004年9月.

13. 玉岡賀津雄・林炫情・宮岡弥生. 日本語と韓国語の文理解におけるスクランブル効果. 韓国日本文化学会. 2005年度春季国際学術大会. 大田大学校(韓国, 大田). 2005年4月.

14. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情・池映任. 韓国語を母語とする日本語学習者による漢字の書き取りに関する研究：学習者の語彙力と漢字に含まれる単語の使用頻度の影響. 韓国日本学会・第72回学術大会. 慶熙大学校 (韓国, ソウル). 2006年2月.
15. 林炫情. 「韓国・朝鮮語」学習者の意識に関する調査研究；広島修道大学の「基礎韓国・朝鮮語」学習者を対象として. 広島韓国研究会. 広島大学 (広島). 2006年6月.
16. 玉岡賀津雄・林炫情・池映任・柴崎秀子. 韓国語母語話者の和製英語の理解に及ぼす日本語の学習経験および語彙力の影響. 韓国日本学連合会第4回国際学術大会. 韓南大学校 (韓国, 大田). 2006年7月.
17. Tamaoka, K., Ihara, M., Murata, T. & Lim, H. Psychological determination in Japanese sequential voicing: The influence of first-element phonological-length and etymological-type on the voicing of second elements. 早稲田大学 (東京). 2006年8月.
18. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生. 肯定と否定表現の違いが行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響. 韓国日本学会第74回国際学術大会. 建国大学校 (韓国, ソウル). 2007年2月.
19. 林炫情. 日韓両言語の肯定と否定表現の違いが行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響. 広島韓国研究会 2007年度定期研究会. 広島大学 (広島). 2007年7月.
20. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀眞. 丁寧度の判定に関わるポライトネス・ストラテジーの要因についての階層的分析. 韓国日本文化学会第29回学術大会. 壇国大学校 (韓国, ソウル). 2007年10月.
21. Tamaoka, K., Miyaoka, Y., Lim, H., Kim, S., & Sakai, H. Differences in discourse comprehension strategies for L2 (second language) Japanese as employed by pair-matched L1 (first language) Chinese and Korean Speakers. 日本言語学会第135回大会. 信州大学 (信州). 2007年11月.
22. Tamaoka, K., Lim, H., & Miyaoka, Y. Effects of gender-identity and gender-congruence on levels of response politeness. 日本語用論学会第10回大会 (10周年記念世界大会). 関西外国語大学. 2008年6月.
23. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情・金秀眞. オノマトペと動詞の共起表現の理解と語彙知識との因果関係－韓国語を母語とする日本語学習者の場合－. 2008年度日本語教育学会春季大会. 首都大学東京 (東京). 2008年5月.
24. 李在鎬・玉岡賀津雄・林炫情. 韓国語の話しことばと書きことばにおける音素, 音節, 音節結合の出現頻度. 日本言語学会第136回大会. 学習院大学 (東京). 2008年6月.
25. 林炫情・李在鎬・曹美庚・浅尾仁彦. 韓国語学習者コーパスの構築：韓国語学習者作文コーパスにおける検索ツールの開発. 電子情報通信学会. 機械振興会館 (東京). 2008年11月.
26. 池田史子・玉岡賀津雄・林炫情. 山口方言の撥音と長音を含む語の産出におけるアクセント核の有無と発音持続時間に関する世代間比較. 日本言語学会第137回大会. 金沢大学 (金沢). 2008年11月.
27. 木山幸子・玉岡賀津雄・高取由紀・林炫情. 責めに対する同意-不同意の多要因構造：日韓米調査データから. 澤滝浦真人科学研究費によるワークショップ「モダリティーとポライトネスの語用論」. 大学東京研究センター (東京). 2009年2月.
28. 李在鎬・林炫情・浅尾仁彦・曹美庚. 韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) について. 朝鮮語教育研究会第10周年大会. 東京大学 (東京). 2009年9月.
29. 竹蓋順子・曹美庚・林炫情・金眞. 韓国語コミュニケーション能力養成のための語彙学習用Web教材の開発. 日本教育工学会第25回全国大会. 東京大学 (東京). 2009年9月.
30. 林炫情. 非母語話者として『日本語を学ぶ』から『日本語を教える』へ. 大学日本語教員養成課程研究協議会 (大養協) 第36回大会 (講演). 九州大学 (九州). 2009年10月.

31. Kiyama, S., Tamaoka, K., Takatori, Y., & Lim, H. Mechanism of multiple factors influencing responses to accusation among people of Japan, Korea, and the United States. 日本言語学会第139回大会. 神戸大学 (神戸). 2009年11月.

32. 林炫情・玉岡賀津雄・李在鎬. 韓国語のオノマトペと動詞の共起パターンに関するコーパスとヒトの言語産出の比較研究. 日本言語学会第139回大会. 神戸大学 (神戸). 2009年11月.

33. 竹蓋順子, 曹美庚, 林炫情, 金眞. 学習者のニーズに応じた韓国語語彙学習用Web 教材の開発. e-Learning 教育学会第 8 回研究大会. 九州大学 (九州). 2010年3月.

34. 林炫情. 韓国語学習者作文コーパス (KC Corpus) とその活用方法について. 韓国学研究会第14回研究発表会. 広島大学 (広島). 2010年6月.

35. Mutsuko Ihara, Katsuo Tamaoka, & Hyunjung Lim. Phonetic and Phonological Effects in Japanese Sequential Voicing. Phonlex 2010. tiendra à l' Université (フランス). 2010年9月.

36. 林炫情. 韓国語学習者作文 (KC Corpus) と韓国語教育への活用. 第4回山口県立大学学術研究会. 山口県立大学 (山口). 2010年9月.

37. Takefuta, Junko, Mikyung Cho, Hyunjung Lim, Jin Kim, "Development of a Korean Vocabulary Courseware," 36th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Expo (Aichi Industry and Labor Center). November, 2010.

38. 伊藤阿弥加・河村麻衣・酒井陽平・藤井里江・藤村菜美・山本美里・浅羽祐樹・林炫情. 地図の遠近感: 対馬の高校生は韓国をどう見ているか. 第14回韓国学研究会. 広島大学 (広島). 2010年12月.

39. 林炫情. 決定木分析を使った語用論研究. 国際言語研究科日本語教育学講座と言語科学会の共催によるワークショップ (講演). 名古屋大学 (名古屋). 2012年1月.

40. 李在鎬・林炫情・宮岡弥生・柴崎秀子. 言語処理の技術を利用したタグ付き日本語学習者コーパスの構築. 日本語教育学会2012年度春季大会. 拓殖大学 (東京). 2012年5月.

#### ■学会予稿集論文

1. 林炫情. 「日本語と韓国語の呼称に関する社会言語学的研究—両言語における呼称使用の現状を中心に」 『社会言語科学会第6回研究大会予稿集』. 31-36. 2000年(9月)

2. 林炫情. 「日本語と韓国語における呼称の対照研究—親族間の呼びかけことばを中心に」 『韓国日本学会日本語教育学会共同主催・日本語教育国際シンポジウム予稿集』. 185-187. 2000年(11月)

3. 林炫情. 「呼称使用に関する日韓対照研究; 非親族に対する呼称を中心に」 『韓国日本文化学会2002年度春季国際学術大会予稿集』. 67-70. 2002(4月)

4. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情. 「韓国語系日本語学習者における尊敬語と謙讓語の知識と運用—ペーパーテストとインタビュー実験を比較して」 『第10回日本語教育学会中国地区研究集会予稿集』. 38-47. 2002年(12月)

5. Tamaoka, K., Lim, H., & Sakai, H. Statistical analysis of frequency data of lexical and syntactic compound verbs taken from corpora of Japanese newspapers and novels. The Third Asian Conference for Lexicology. 6-7. 2003年(3月)

6. 林炫情・玉岡賀津雄. 「職場における「お兄さん」および「お姉さん」の親族呼称使用に関する日韓対照研究」 『韓国日本文化学会2003年度春季国際学術大会予稿集』. 23-26. 2003年(4月)

7. 林炫情・玉岡賀津雄. 「職場での呼称使用に対する韓国人の属性・対人関係特性・性格特性の影響」 『日本言語学会・第126大会予稿集』. 18-23. 2003年(6月)

8. 林炫情・深見兼孝. 「第三者への言及称（他称詞）と述語に見られる待遇法に関する日韓対照研究」『韓国日本学連合会・1回国際学術大会予稿集』. 432-436. 2003年（7月）
9. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生. 「味覚形容詞「甘い」「辛い」「渋い」「塩辛い」「酸っぱい」の基本義と別義に関する新聞および小説のコーパス出現頻度の解析」『第10回韓国日本語学会予稿集』. 155-159. 2004年9月
10. 玉岡賀津雄・林炫情・宮岡弥生. 「日本語と韓国語の文理解におけるスクランブル効果」『韓国日本文化学会2005年度春季国際学術大会予稿集』. 90-96. 2005年（4月）
11. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情・池映任. 「韓国語を母語とする日本語学習者による漢字の書き取りに関する研究：学習者の語彙力と漢字に含まれる単語の使用頻度の影響」『韓国日本学会第72回学術大会予稿集』. 356-359. 2006年（2月）
12. 玉岡賀津雄・林炫情・池映任・柴崎秀子. 「韓国語母語話者の和製英語の理解に及ぼす日本語の学習経験および語彙力の影響」『韓国日本学連合会第4回国際学術大会予稿集』. 576-579. 2006年（7月）
13. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生. 「肯定と否定表現の違いが行為要求型表現の丁寧度に及ぼす影響」『韓国日本学会第74回国際学術大会予稿集』. 184-189. 2007年（2月）
14. 林炫情・玉岡賀津雄・宮岡弥生・金秀眞. 「丁寧度の判定に関わるポライトネス・ストラテジーの要因についての階層的解析」『韓国日本文化学会第29回学術大会予稿集』. 87-95. 2007年（10月）
15. Tamaoka, K., Miyaoka, Y., Lim, H., Kim, S., & Sakai, H. Differences in discourse comprehension strategies for L2 (second language) Japanese as employed by pair-matched L1 (first language) Chinese and Korean Speakers. 『日本言語学会第135回大会予稿集』. 316-321. 2007年（11月）
16. Tamaoka, K., Lim, H., & Miyaoka, Y. Effects of gender-identity and gender-congruence on levels of response politeness. 『日本語用論学会第10回大会（10周年記念世界大会）予稿集』. 78. 2008年（6月）
17. 宮岡弥生・玉岡賀津雄・林炫情・金秀眞. 「オノマトペと動詞の共起表現の理解と語彙知識との因果関係－韓国語を母語とする日本語学習者の場合－」『2008年度日本語教育学会春季大会（首都大学東京）』. 133-138. 2008年（5月）
18. 李在鎬・玉岡賀津雄・林炫情. 「韓国語の話しことばと書きことばにおける音素、音節、音節結合の出現頻度」『日本言語学会第136回大会予稿集』. 390-395. 2008年（6月）
19. 池田史子・玉岡賀津雄・林炫情. 「山口方言の撥音と長音を含む語の産出におけるアクセント核の有無と発音持続時間に関する世代間比較」『日本言語学会第137回大会予稿集』. 238-243. 2008年11月
20. 竹蓋順子・曹美庚・林炫情・金眞. 「韓国語コミュニケーション能力養成のための語彙学習用Web教材の開発」『日本教育工学会第25回全国大会予稿集』. 641-642. 2009年（9月）
21. Kiyama, S., Tamaoka, K., Takatori, Y., & Lim, H. Mechanism of multiple factors influencing responses to accusation among people of Japan, Korea, and the United States. 『日本言語学会第139回大会予稿集』. 204-209. 2009年（11月）
22. 林炫情・玉岡賀津雄・李在鎬. 「韓国語のオノマトペと動詞の共起パターンに関するコーパスとヒトの言語産出の比較研究」『日本言語学会第139回大会予稿集』. 366-371. 2009年（11月）
23. Takefuta, Junko, Mikyung Cho, Hyunjung Lim, Jin Kim, "Development of a Korean Vocabulary Courseware," 36th Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Expo. 45. 2010年（11月）
24. 林炫情. 「韓国語学習者作文（KC Corpus）と韓国語教育への活用」『第4回山口県立大学学術研究会予稿集』. 7-13. 2010年（9月）
25. 李在鎬・林炫情・宮岡弥生・柴崎秀子. 「言語処理の技術を利用したタグ付き日本語学習者コーパスの構築」『日本語教育学会2012年度春季大会予稿集』. 9. 2012年（5月）